

1. 上位関連計画

1) 豊島区国際アート・カルチャー都市構想

多様な文化資源を有する豊島区の強みを最大限に活かしながら、安全・安心な人間優先の都市空間の整備を進め、表現の舞台として開放していくことで、世界からアート・カルチャーの魅力で人や産業を惹きつける都市づくりを進めている。

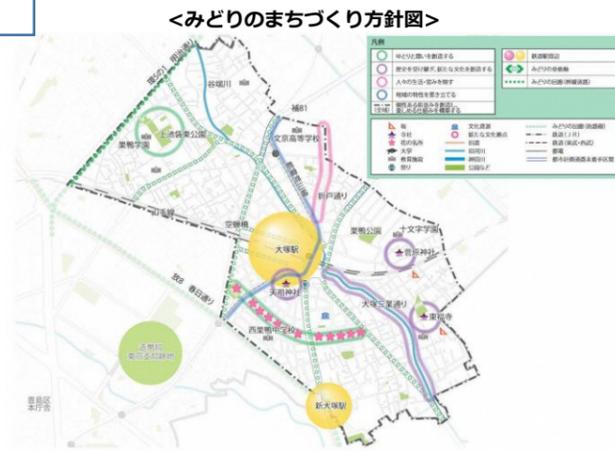
○ 基本理念

- ① 多様性を活かしたまちづくり      ジャンルを超えて多様な文化が共存する世界に類を見ない「文化融合都市」
- ② 出会いが生まれる劇場空間      多様な文化が出会い交流できる、空間的にも心理的・文化的にもバリアフリーな「スーパーバリアフリー都市」
- ③ 世界とつながり人々が集まる街      新たな文化潮流を常に発信し続ける魅力と活力にあふれた都市

2) 豊島区景観計画

豊島区都市づくりビジョンの中で示した「都市づくりビジョンの8つの都市づくり方針を具体化する基本計画」として、都市づくり方針に掲げた「個性ある美しい都市空間の形成」を担うものとしている。

- 地域別景観まちづくり方針：大塚地域
- ① ゆとりと憩いを創造する
- ② 歴史を受け継ぎ新たな文化を創造する
- ③ 人々の生活・営みを映す
- ④ 地域の特性を引き立てる



3) 豊島区みどりの基本計画（平成28年3月見直し）

日本一の高密都市である豊島区として独自の緑化環境を整備し、誰もが快適に過ごせる都市づくりを目指した緑化を推進している。

- 地域別方針：大塚地域
- みどりのキャッチフレーズ:

色とりどりの花に包まれ、人々が交流する花と緑の美しいまち

- ① みどりのネットワークの形成
- ② 大塚駅周辺のみどりづくり
- ③ 公共施設や民有地の緑化推進
- ④ 都電沿いのバラ緑化のPR



2. 大塚駅北口駅前空間整備関連計画

1) 大塚駅前空間整備の基本方針

大塚駅北口は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に外国人を含めた観光客の増加が見込まれるため、多様な来街者を受け入れるための環境を向上するとともに、駅前からまち全体へ人々が足を運びたくなるような「奥行きのあるまち」にしていく。

2) 大塚駅北口駅前空間整備のコンセプト

- ① 地域制に配慮した「大塚らしい」駅前空間の創出
- ② 駅からまちに広がる「奥行きのあるまち」の創出
- ③ 外国人を含めた多様な来街者の受け入れ環境の向上
- ④ 昼夜を問わず「明るく、安心・安全なまち」の形成
- ⑤ 周辺の商店街の活性化につながる工夫

3) ランドスケープデザインを実施する空間要素

- ① 歩行者空間
- ② 駅前広場空間
- ③ オープンスペース
- ④ その他大塚駅北口空間に必要とされる要素

3. 駅前空間を再整備するにあたっての配慮事項と基本計画の計画範囲

1) 広がりのある景観づくり

- ① 駅出入口から広がるイメージの創出
- ② 景観を阻害する街路樹の剪定、撤去
- ③ 施設類の集約・整理・撤去
- ④ 連続性のある施設配置

2) 「大塚らしさ」の創出

- ① 造形テーマ（シンボル）の設定
- ② 施設類のデザイン統一
- ③ 移動の目標物（モニュメント）の整備
- ④ 多様な視点場を想定した景観づくり

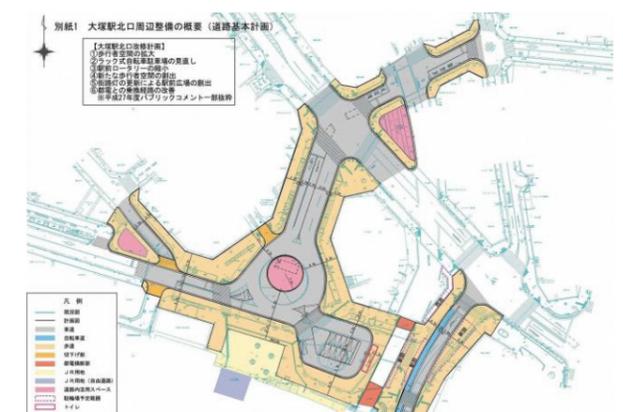
3) 安全性・防犯性の向上

- ① 安全な歩車道分離
- ② 夜間の明るさ向上
- ③ 防犯カメラの設置
- ④ まちの死角の削減

4) 多様な利用シーン・ニーズへの対応

- ① 昼間はスムーズに利用できる機能的な駅前空間／夜間は商店街の魅力を引き立てる光の演出
- ② 平常時には親しみやすい景観の創出／イベント時には賑わい景観の創出
- ③ 移動の円滑性向上：道路の上屋設置、夜間の照度確保、段差の解消
- ④ 効果的な情報発信：案内サインの設置、多言語による情報表示
- ⑤ 滞留空間の整備による賑わいの創出

5) 計画範囲

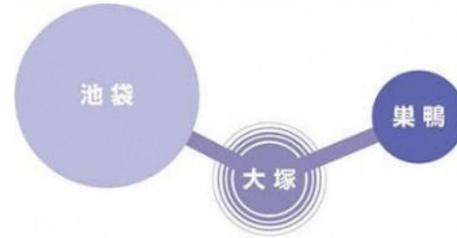


4.計画のテーマ：小さな感動の舞台 ～ アフター・ザ・シアター / 光のファンタジー ～

北口の再整備により新たな歩行者空間と賑わいの場が生まれる  
 現在の明るく行き交う笑顔が一層輝きを増す  
 大塚は**小さな感動の舞台**となる  
 ～ アフター・ザ・シアター / 光のファンタジー ～

1) 大塚駅の特徴を活かす

- ① 大きな池袋、個性派巣鴨にはさまれ、個性が埋没しかねない
- ② 多くの人が行き交い、南と北に広がるまち
- ③ 国際アート・カルチャー都市、東アジア文化都市を具体化する 使命を果たす



2) 大塚駅を中心とする南北の広がり - 奥行きのあるまち -

- 大塚北口駅前空間を区民生活を豊かにし、区民とともに作る公共サービスの場ととらえる。
- 大塚北口駅前空間は、東から西へ様々な市街地への集散の場であり、大塚商人祭りやよさこいの会場として突然現れる祭りの場、そして静かに人々が語り、佇む場である。

5. 3つのシーンに変化する表情 ～祭りの予感・微笑伝播・破顔満点

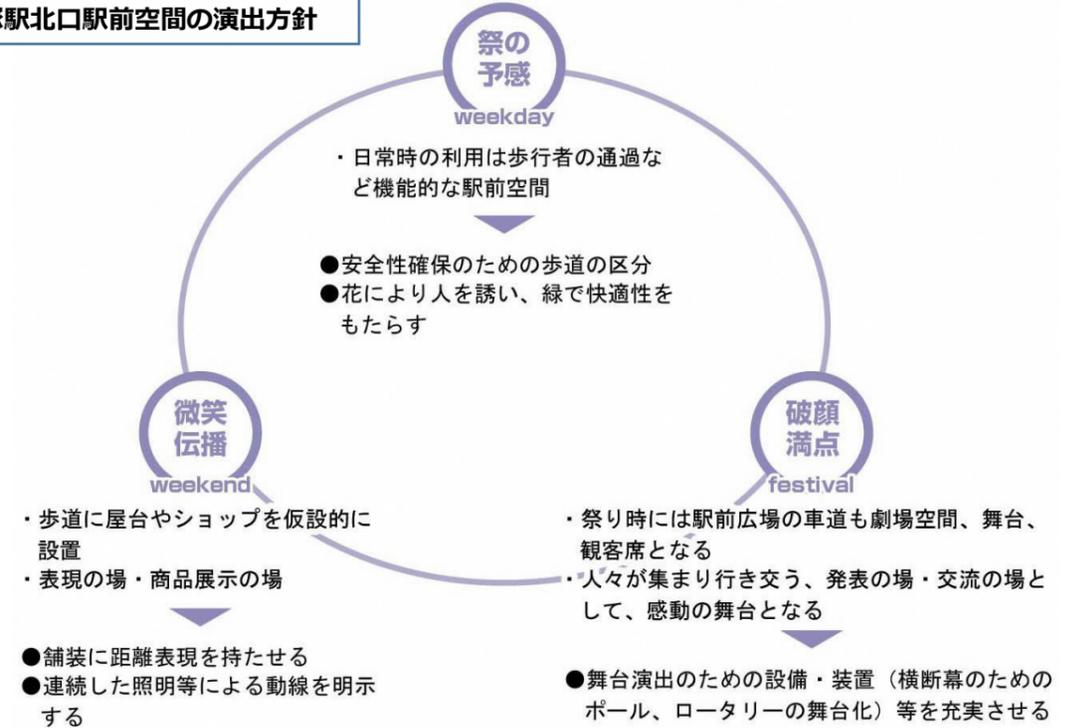
大塚駅北口の駅前空間は、通常時とイベント時、および平常時であっても昼間と夜間、平日と週末とで表情が異なることが特徴である。

駅前空間の整備検討にあたっては、こうした多様な表情に対応しながら、それぞれの利用シーンにおいて効果的な演出を図る。

1) 大塚駅北口周辺の利用シーンと演出方針

利用シーン		駅前空間の表情	演出方針
通常時	昼間	機能的な駅前空間でありながら、ポテンシャルを感じる駅前空間	<b>祭りの予感</b>
	夜間	何かが始まる予感を感じる、ワクワクさせる駅前空間	<b>微笑伝播</b>
	週末		
イベント時		まち全体が盛り上がる、交流・感動の舞台、劇場としての駅前空間	<b>破顔満点</b>

2) 大塚駅北口駅前空間の演出方針



6. 「〇」をテーマとした空間構成

1) 造形テーマの「わ！」

- ① 「大塚 = Otsuka」から、ランドマーク、個性化のシンボルとして「〇」を抽出する。
- ② 〇は無限であり、完成、無欠、満足を象徴する。
- ③ 円形のロータリーを中心として、大塚駅北口の多様な視点場から、〇を感じさせるランドスケープを構成する。
- ④ 円形のモニュメント、広がりを感じる舗装パターンなど駅前から周辺のまちへ、放射状の人の流れを誘導する。

2) 空間整備への展開

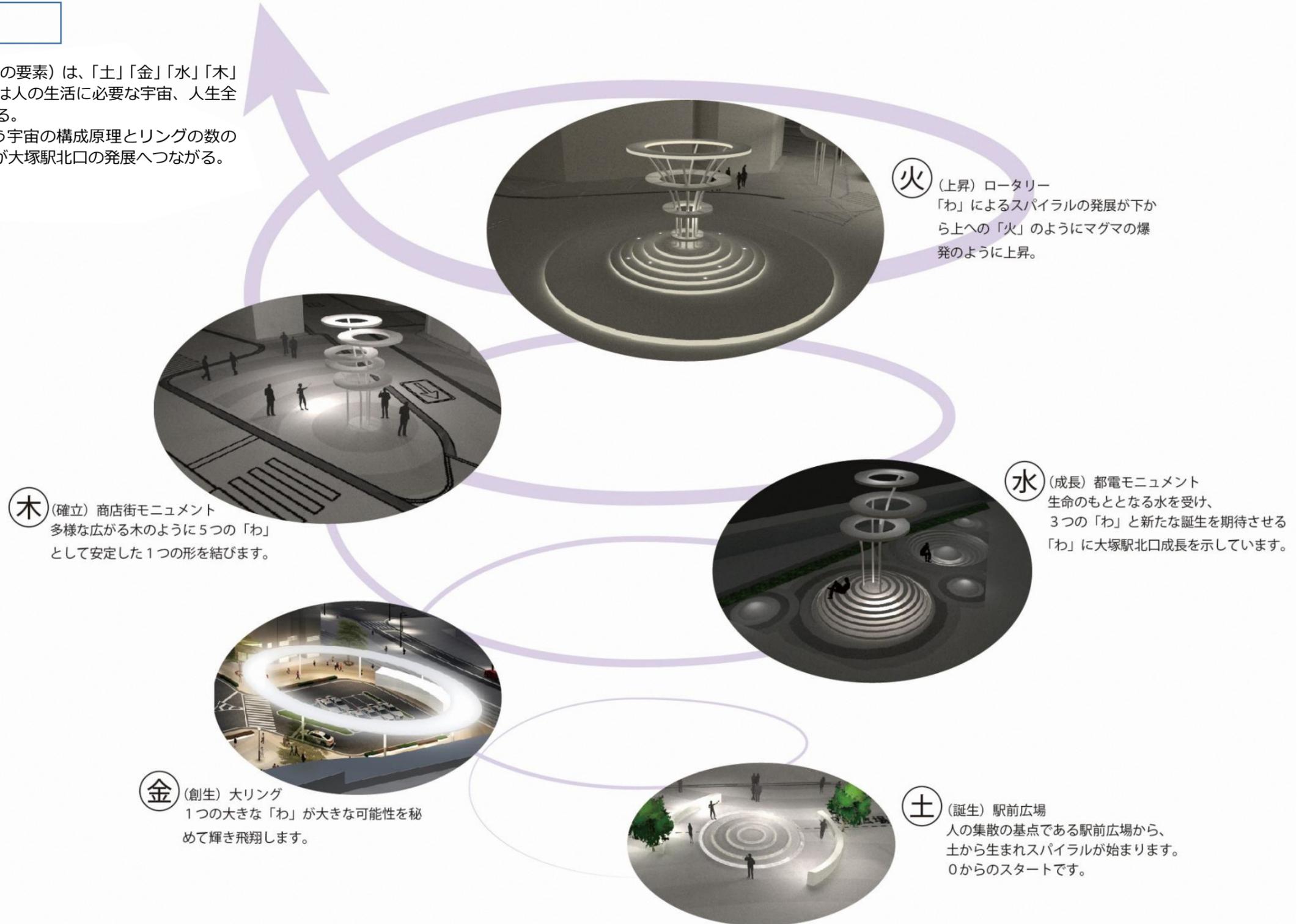
- ① **3 + 1 = 4つのモニュメントにより空間の骨格を形成する**  
 ロータリー、都電三角地、商店街入口三角地に、タクシープールを加えた4つのモニュメントを配置することにより、駅前の景観を特徴づけるとともに、空間の骨格を形成する。
- ② **広間は機能性を確保、夜間は「まち」の魅力を演出する**  
 昼間は機能的な駅前空間としつつ、夜間には「まち」の魅力を引き立てるとともに、安全安心を確保できる空間とする。
- ③ **見通しを確保する**  
 目的地や目標物が明瞭に認識できるよう、駅からの見通しを確保し、歩き出したくなる駅前空間とする。
- ④ **「人の居場所」を創出する**  
 駅前の公共空間に人が滞留できる空間をしつらえ、賑わいを創出する。
- ⑤ **多様な視点場を意識する**  
 駅利用者だけでなく、民間施設の利用者、都電の乗客など、多様な人々に大塚駅北口の魅力をアピールするため、多様な視点場を想定した景観づくりを行う。

7.モニュメント

■3+1のモニュメント

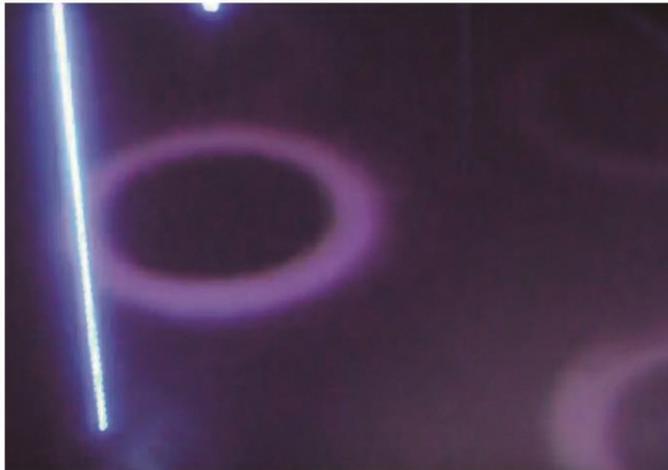
五行（空間を構成する5つの要素）は、「土」「金」「水」「木」「火」とされており、これらは人の生活に必要な宇宙、人生全てを説明する原理とされている。

土⇒金⇒水⇒木⇒火という宇宙の構成原理とリングの数の0から∞まで正のスパイラルが大塚駅北口の発展へつながる。

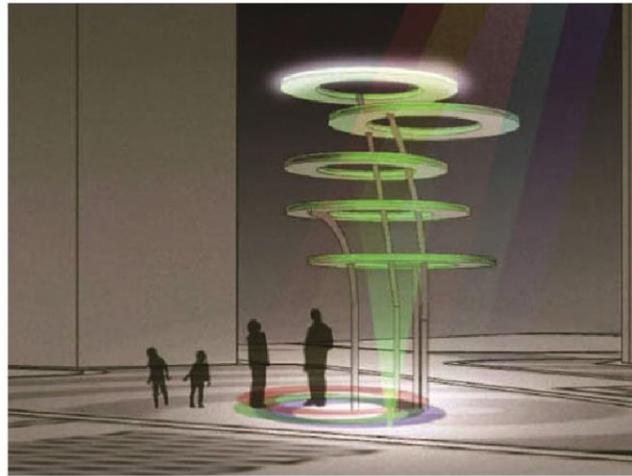


8.光のファンタジー

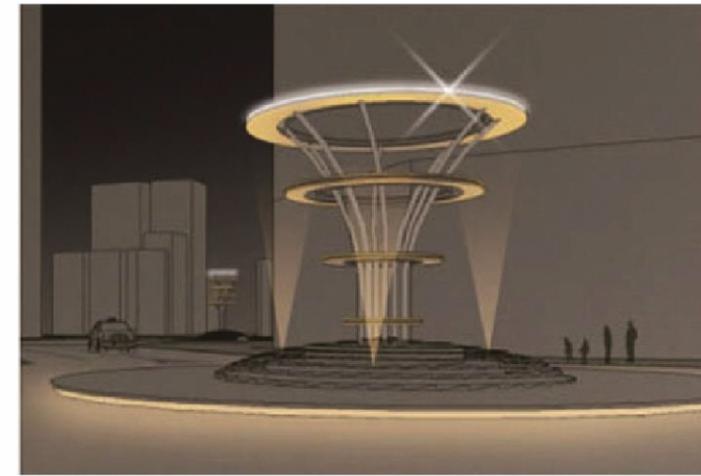
土  
駅前広場



木  
商店街三角地



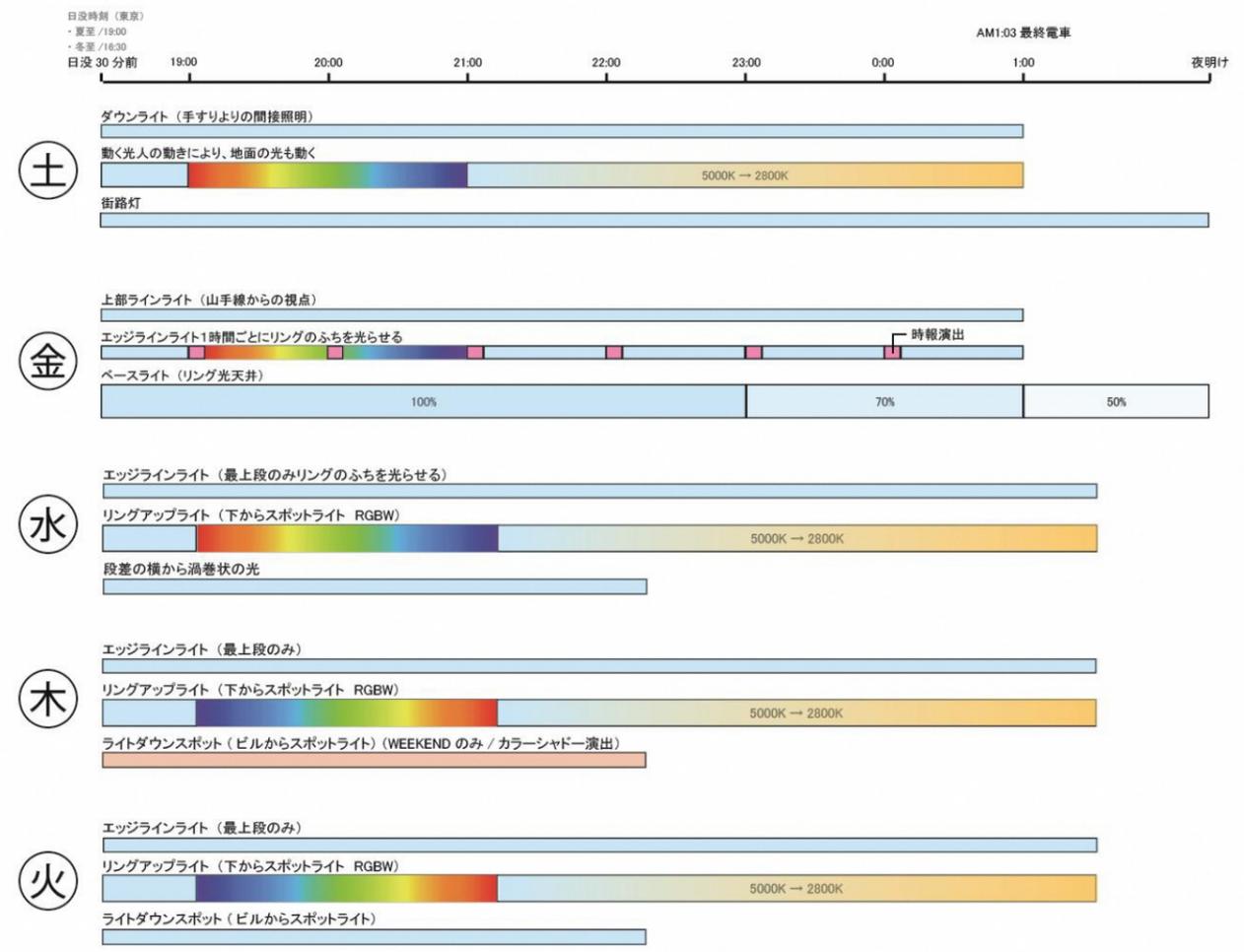
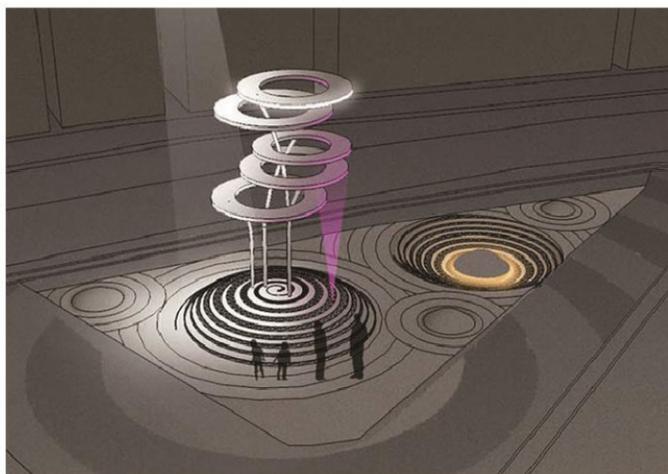
火  
ロータリー



金  
大リング



水  
都電三角地



9.大塚駅北口駅前空間の空間整備イメージ

